

考古学研究室報告

第34集

- I ナガラ原東貝塚
 - II 西原F遺跡 3
 - III 肥後における古墳の調査 3
- 1998年考古学研究室の足跡

1998

熊本大学文学部考古学研究室

序 文

平成10年4月1日より、大阪大学の杉井 健さんを助教授に迎え、考古学研究室の研究教育体制をやっと整えることができた。有為な人材を社会に送り続けることが強く求められる昨今の一般状況のもと、考古学の実習教育を通して社会的トレーニングを実践する上で待ち望まれたことであった。

こうした新しい出発に際し、「琉球列島における初期国家の形成」をテーマに掲げ、奄美大島用遺跡での過去3ヶ年の調査成果を生かすために実習調査地を沖縄に求めたが、幸いに沖縄県内の研究者や沖縄県文化課、伊江村教育委員会各位の御配慮により伊江島のナガラ原東貝塚を調査することができた。調査の結果奄美用遺跡とほぼ同時期の保存良好な貝塚であることがわかり、比較検討の資料としては申し分ないだけでなく、イネの出土が確認されたことで、いっそう今後の調査研究が楽しみとなった。

阿蘇における旧石器文化遺跡の調査は、熊本大学埋蔵文化財調査室の小畑・大坪両氏の協力を得て行われ、台形石器段階の貴重な遺跡を調査することができた。考古学に進級する学生が増加したことで、南島と阿蘇、旧石器と古墳時代並行期という全く異なった性格の遺跡を全員が手がけることは出来なかったが、一部にしる両方の発掘に参加した学生にとっては、極めて有意義な経験をしたことになる。今時点ではその意味が分からなくても、今後の多様な生き方の中でそうした経験はきっと生かされるものであり、機会があれば積極的に多くの発掘調査に加わることが大切である。

今年度は九州考古学会と韓国嶺南考古学会の合同学会が熊本で開催され、研究室挙げでの取り組みであったために、この報告書を作成するに当たっては時間的余裕が少なかったのはやむをえないことであったが、ナガラ原東貝塚は藤江望が、阿蘇西原F地点は藤木聡が担当し、上手に纏め上げた。

ナガラ原東貝塚の調査では松本幡郎、西中川駿、黒住耐二、樋泉岳二、高宮広土、Mark Hudson各氏にお世話になり、黒住、樋泉、高宮、Hudson各氏からは報文を頂戴しました。ここで深くお礼申し上げます。またこの報告書には「肥後における古墳の調査3」として熊本県球磨郡鬼の釜古墳、天草の古墳の実測調査報告も掲載することができた。執筆された古城史雄、藏富士寛両氏に謝意を申したい。

1999年1月31日

甲 元 眞 之

I ナガラ原東貝塚

例 言

- 本編は熊本大学文学部考古学研究室による沖縄県国頭郡伊江村字川平1061-1・1062-1・1071-1番地所在のナガラ原東貝塚の発掘調査報告である。
- 発掘は実習調査として研究室が起案し、沖縄県教育庁文化課・伊江村教育委員会の協力を得て実施された。
- 調査は1998年7月5日から19日までの15日間実施した。
- レーダー探査・電気探査の報告については筑波大学 Mark Hudson 先生にお願いした。
- 脊椎動物、軟体動物、植物遺存体の鑑定、分析については、順に早稲田大学樋泉岳二、千葉県立中央博物館黒住耐二、札幌大学高宮広土の各先生にお願いした。
- 石材の鑑定は元熊本大学理学部松本幡郎先生にお願いした。
- 中川毅人担当の獣骨の鑑定指導は鹿児島大学農学部西中川駿先生、同進沼浩氏にお願いした。
- 本書の編集は藤江望がおこない、執筆分担については執筆者名を各文末に記した。
- 調査参加者・整理作業者は以下の通りである。
 - 甲元真之 木下高子 杉井健（以上教官）
 - 藤江望 藤木聡 村崎孝弘（以上大学院1年次生）
 - 松嶋木綿子（調査当時） 山崎常美（以上研究生）
 - 石川まどか 緒方智子 鍛冶真理子 亀井菜津子 新里亮人 富永明子 中川毅人
 - 馬場達也 古野京子 峯崎麻帆 村上浩明 山口大介（以上学部3年次生）
 - 荒木隆宏 河合章行 木村龍生 京極佳子 熊本茂仁 高橋久美 竹中克繁 橋口剛士
 - 松根恭子 丸山愛 劉軍（以上学部2年次生）

本文目次

一 位置と環境	1
1. 地理的位置と環境	1
2. 歴史的環境	3
二 調査の概要	6
1. 調査経過	6
2. 層序	8
三 出土遺物	11
1. 土器	11
2. 土製品	17
3. 骨製品	18
4. 石器	18
5. 貝製品	21
6. 脊椎動物遺存体	28
四 まとめ	33
付 浜崎貝塚採集石斧	35
特論	
1. ナガラ原東貝塚の水洗選別試料より検出された脊椎動物遺体	37
2. 1998年のナガラ原東貝塚調査で得られた貝類遺存体(予報)	40
3. ナガラ原東貝塚出土の植物遺体	49
4. ナガラ原東貝塚のレーダー探査と電気探査	54

挿入目次

第1図 伊江島周辺の地質図	2
第2図 伊江島の地形および遺跡分布図	5
第3図 遺跡周辺地形図および調査区位置図	7
第4図 南北ラインエレベーション図	7
第5図 土層断面図・調査区平面図・コラムサンプル位置図	9
第6図 出土土器実測図(1)	14
第7図 出土土器実測図(2)	15
第8図 出土土製品・出土土器実測図(3)	17
第9図 出土骨製品・出土石器実測図(1)	19
第10図 出土石器実測図(2)	20
第11図 ナガラ原東貝塚出土有孔貝製品重量別分布	21
第12図 用見崎遺跡出土有孔貝製品重量別分布	21
第13図 出土貝製品実測図(1)	22
第14図 出土貝製品実測図(2)	23
第15図 出土貝製品実測図(3)	25
第16図 出土貝製品実測図(4)	26
第17図 イノシシ骨計測部位	29
第18図 魚骨計測部位	30
第19図 主な出土遺物の層別出土一覧	34
第20図 浜崎貝塚周辺地形図	35
第21図 浜崎貝塚採集石斧実測図	36

表 目 次

第1表	伊江島遺跡一覽表	4
第2表	出土土器分類集計表	12
第3表	出土土器観察表	12
第4表	後期遺跡出土土器底部の比率	16
第5表	土器の条痕調整および注口土器の有無	16
第6表	出土石器計測値一覽表	21
第7表	出土有孔貝製品計測表	27
第8表	有孔ゴホウラ出土一覽表	27
第9表	出土動物名および重量表	28
第10表	動物骨層位別出土表	30
第11表	動物骨計測値表	31
第12表	浜崎貝塚採集石斧計測表	36

図版目次

図版1上	ナガラ原東貝塚遠景(北東より)	図版5上	骨製品・石鏃・石錐
中	調査前の遺跡近景(北側より)	中	敲石
下	完掘状況(南東より)	下	その他の石器
図版2上	北トレンチ東壁セクション	図版6上	有孔貝製品(1)
中	南トレンチ深掘り区東壁セクション	中	有孔貝製品(2)
下	北トレンチピット検出状況	下	イモガイ螺頭部・貝輪未製品
図版3上	I～III層出土土器	図版7上	その他の貝製品
中	III層出土土器・IV層出土土器	中	その他の貝製品
下	IV層出土土器	下	脊椎動物骨
図版4上	V層出土土器・VI層出土土器	図版8上	脊椎動物骨
中	その他の土器	中	自然遺物(貝)
下	出土土器底部	下	浜崎貝塚採集石斧